



東京日本語ボランティア・ネットワーク

はこれからも・・・

TNVNは2019年12月6日から27年目の活動が始まっています。

TNVNは、会員向けに、年4回発行するニュースレターで日本語ボランティア活動に関わる様々な情報を提供し、日本語学習を希望する外国人向けには、3～4年毎に「ボランティア日本語教室ガイド」を発行し、会員と学習者を繋ぐ役目を担ってきました。また日本語ボランティア講習会や日本語ボランティア入門講座などを行い、現在は出前講習会となり日本語ボランティア育成の一翼を担います。あわせて、調査報告書「日本語ボランティア活動実態調査」を発行しています。最近ではTNVNの活動について行政、マスコミ、教育機関などから、問合せや意見を求められる機会が多くなってきました。

TNVNは現在、11名（在宅2名含む）のスタッフ、及び、6名の運営委員で活動を行っています。今後も活動を続けていくには、時代の変化に応じた体制作りも必要です。今回、TNVNの現状と課題を改めてお知らせすると共に、今後の方向性を会員の皆様と考えていきたいと思ひます。

● TNVNの役割

TNVNは、都内で活動するボランティア日本語教室の連絡会事務局として活動し、日本語ボランティア活動に関する各種情報提供・情報交換、日本語学習希望者に対する日本語教室紹介、行政及び外部機関・団体との連携・連絡などが、活動の柱

になっています。こうした活動を将来に亘り安定的に続けて行く為には、幾つかの課題があります。

● スタッフの高齢化

スタッフも運営委員の方々も、年齢の高い方々が殆どで、自身や家族の健康問題を抱えながら活動が続けています。TNVNが一定の社会的役割を果たしている現状を考えると、高齢化による機能不全は避けなければなりません。若い意欲のある方のスタッフとしての参加を望んでいます。

● 活動経費について

TNVNは、主として、会費と講習会講師料と篤志家の寄付で運営されています。現状、社会環境の変化もあり、正会員数の横ばい傾向が続いており、会費収入の伸びは期待出来ません。一方、経費は、色々なものが少しずつ値上がりしています。経費の中で、年4回発行しているニュースレター関係の費用は、会費収入を若干上回り赤字状態です。又、3～4年に1回発行する「ボランティア日本語教室ガイド」も、今まで通り、行政の助成で発行するとなると、継続が難しくなってきます。事務局では、折に触れ、非会員の都内ボランティア日本語教室にTNVN参加を呼び掛けております。

● ニュースレター

情報提供はTNVNの活動の柱です。今の時代、3ヶ月に一回程度の紙媒体の会報はニュースにならない

との意見もありますが、楽しみにしている会員も多く、TNVNとしては現状を維持したいのですが、費用の問題がネックになって来ています。

● ホームページ

TNVNホームページは、在宅スタッフ（忙しい職場にお勤めの方）のご協力で維持されております。特に「ボランティア日本語教室」欄は、学習希望の外国人に活用されていて、ホームページを見て問い合わせをする学習者の便利な情報になっています。只、学習者ファーストを考え、会員ではない教室も、TNVNが把握している教室は全て載せています。会員ではない教室から掲載事項の修正や新規掲載の依頼もあり、そうした依頼にも対応しています。スタッフの高齢化や経費の問題から、今後どうするか、検討課題です。

● TNVNのこれから

日本で仕事をし、暮らす外国人が増えていきます。そういう人達を隣人として支える日本語ボランティア、ボランティア日本語教室に期待が高まっています。日本語ボランティア、ボランティア日本語教室活動に関わる情報提供、運営やボランティア育成の相談、学習希望者に対する情報提供など、TNVNの存在と役割は不変だと考えています。その為には、上に述べた問題点・課題を克服しなければなりません。皆様の忌憚のないご意見、ご提案、そしてご協力・ご支援をお願いしたいと思います。

（梶村・神）

海外につながる高校生への日本語支援の取り組み

YSCグローバル・スクールの 実践から

寄稿

ピッチフォード理絵

特定非営利活動法人青少年自立援助センター
YSCグローバル・スクール
多文化コーディネーター



NPO法人青少年自立援助センターが東京都福生市で運営する「YSCグローバル・スクール」では、2010年度より約30カ国にルーツを持つ子ども・若者たちを年間100名以上受け入れ、専門家による日本語や教科学習の支援を行っています。また、全国的に不足する日本語を母語としない子どもたちの支援機会拡大を目指して、2016年度からは、ICTを活用したオンライン遠隔地日本語教育事業「NICO こども×にほんごプロジェクト」を運営し、全国各地の子どもたちに専門家による支援を届けています。スクールでは6歳～30代の若者までが幅広く学んでいますが、毎年、翌春の高校進学を目指す14歳～10代後半の若者が高校進学準備クラスに多数在籍しています。

高校進学準備クラスには放課後クラスと日中開講クラスとがあります。放課後クラスでは昼間は中学校に通う中3が学んでいます。彼らの多くは日本生まれ～幼少期来日で、このクラスでは「塾」に近い形態で授業が行われます。一方日中開講のクラスには自国で中学校を卒業、もしくは高校1年修了や高校2年の途中で来日した10代後半の若者たちが在籍しています。彼らの多くは日本語がほとんどできない状態で来日し、日本語集中クラスでまず日本語を学んだ後、高校進学準備プログラムへと移行します。

それぞれの来日時期、日本語力、英語力、教科の学習能力、年齢や家庭環境など様々な要件が組み合

わさり受験校が決まっています。放課後クラスの子どもの多くは都立全日制高校へ進学します。日中クラスでは在京外国人特別枠設置校へ進学するものが多いですが、在京外国人試験は日本語か英語の作文と面接のため、どちらの言語でも作文が書けるレベルではないものには厳しい試験になります。来日1～1年半程度のため、在京枠のある学校以外の高校に一般受験で合格することは難しく、在京試験に不合格の場合は主に夜間定時制高校へ進学するという形になります。また、17歳～18歳で受験を迎える場合、全日制の制服着用や校則といった日本的な学校文化に抵抗があり、自ら夜間定時制を望んで進学する場合もあります。

こうして毎年20～30名程度の若者を高校に送り出していますが、高校生になった彼らに対する支援はこれまで手薄だったと言わざるを得ません。理由の一つが当スクールが個別支援、マンツーマンの支援ではなく、高校進学という同じ目標を持つ子どもたちに対して「集団授業」を実施しているという点にあります。高校は学校によるカリキュラムの差が大きく、そのうえ彼らが求める支援はそれぞれの宿題サポートやプリントの解説が主であり、集団での授業にはそぐわない場合が多いのが実情でした。

進路別にみると、放課後クラスから全日制高校へ進学した子どもはどうか支援がなくてもやっつけられる子どもがほとんどです。在京外国人枠設置の高校に進学した場合は「日本語」の授業が正規カリ

キュラムに組み込まれ単位が取れたり、通訳が付いたり地域ボランティア団体からサポートチームが派遣されたりと学校による多少の差はありますが、ある程度の支援が提供されています。それに対して夜間定時制での支援体制はやや手薄と言わざるを得ません。「日本語がわかりません」「日本語の勉強がしたいです」登校前にスクールに立ち寄り切実に窮状を訴える子どもたちを前に集団授業で何ができるかを考え、日本語能力試験N3対策クラスを定時制高校の授業前の時間に高校の教室から受講できるオンライン授業の配信での実施に向けて準備を始めました。



受講風景

試験対策は集団での授業が可能であること、卒業後進学にも就労にも試験合格という目に見える日本語力は有益であること、学校では試験対策のような専門性が高い指導は簡単ではないこと、都立高校内でのオンライン授業受講という前例を作ることが次へのステップになることなどを考え開講の準備を進めました。

2019年5月、都立青梅総合高校定時制、都立福生高校定時制へのオンライン配信N3対策クラスがスタートしました。受講生は定時制高校の授業前にそれぞれの学校の教室に集まり、福生のスクールからオンラインで配信されるライブ授業を受講します。当スクールのオンライン授業はテレビ会議システムを利用している為、単なる動画視聴ではなく双方向のコミュニケーションが可能であり、受講生と講師は画面を通じて対面の授業しながらに学習を進めることができます。学校からの受講のためパソコン等の機材も学校の備品を使用し、当スクールまでの交通費も発生しないため生徒の負担は大きく軽減されます。

12月に実施される試験でN3に挑戦する受講生たちは最後の追込みに入っています。彼らの中にはオンライン配信授業、という形でなかったら試験の受験など考えもしなかった者もいます。しかし、彼ら

は「たまたま」つながったにすぎません。ほんのちょっとしたタイミングの違い、在籍学校の違い、住んでいる地域の教育委員会のスタンスなど、彼らにはどうしようもない要因によって私たちが繋がることができている子どもたちがいます。自治体による学校内のインターネット使用のレギュレーションも大きな壁なのが実情です。現在高校との連携授業はN3対策のみですが、今後N2、また必要に応じてN1やN4対策のクラス設置も準備中です。

日本で暮らす海外にルーツを持つ高校生たちは増加の一途です。散在地域、へき地、離島、あらゆる地域に海外につながる子どもたちが存在する今、彼らには日常や学校生活のための「日本語支援」とともに進学、就労に向けた「日本語教育」が必要です。「日本語支援」に関しては地域ボランティア教室の存在は大きな助けですが、試験対策のような「日本語教育」には専門性が要求されるのも事実です。YSCグローバル・スクールではこれまでに都内だけでなく甲信、関西、中部地域などの国際協会やボランティア支援団体と連携し、学校やボランティア教室がカバーするのが難しい専門家による日本語指導、高校進学に向けての受験対策などをオンライン配信してきました。それぞれの支援団体の得意分野を生かしながら連携をしていくことで、社会の中の多様な個性が織り成すハーモニーが新たな活力を生む未来に向け、支援の幅は劇的に広がる可能性を秘めていると確信しています。

まおさんとちんさんと ちょうさんの話

日本語教師 金子 広幸

今日はある留学生「まおさん」と「ちんさん」と「ちょうさん」の留学記をお話ししましょう。

まおさんは子どもの時からよく山で遊んでいました。自然が大好きだったようです。成績優秀で、若い時から家庭教師までつけて、外国語にチャレンジ、少々遅まきですが30歳で留学しました。いろいろあって、到着地が目的地から離れたところだったので、苦労して山越えて自分の学校に。勉強を始めるまでに時間がかかってしまったのです。でも、道すがら、色々な人に出会ってよかったとよく言っていました。

私のクラスの学生の中にもなかなかビザが取れず日本に入国できない人もいます。日本で学びたくても、手立ても経済力もなくて来られない人もいます。

ちんさんはもっと大変でした。27歳で留学したのですが、出国自体が制限されていたので、危険を

冒して特別のルートで出国。たった一人ではるばる留学の地に向かいました。

こういうことはよくあるもので、以前の号で紹介したBJも、台湾人であるがゆえに、兵役が終わっていないと海外で留学するのは難しいのです。でも、そのBJは今ようやく念願のアメリカに戻れて、たった一人で荷物をしたくし、車で1200キロも移動、新しい大学についこの8月の初めに到着しました。いよいよ医師として働きながら、学ぶ生活が始まります。

もう1人のちょうさんという人は、もっと若く19歳の時に留学しました。

私の日本語のクラスにも18歳の学生もいますし、日本語学校のベトナムやインドネシアの学生にも、アルバイトをしっかりとやっている若い人が多いですね。

ちょうさんは、その後長く勉強して、その留学先の国の公務員試験を受け、なんとベトナムの地方長官になったのです。自分の国の言葉を忘れてしまったかもしれませんし、結局自分の国には帰って来られませんでした……。

日本での留学後に、日本で仕事を探して定着・活躍していく人も今後

はますます増えるでしょう。

まおさんもちんさんもちょうさんも、こうしてみると、私の学生らと、年齢も、勉学の苦労も、夢も、パイタリティーも、その後獲得した地位や成功も、そっくりです。

今は世界中に散らばっている、私の以前の学生たちが、こないだ、東京に集まってくれました。そのレストランで、若い彼らが、日本の社会についてや、楽しかったこと、辛かったことなどを、高度な日本語を始め、ロシア語、英語、広東語、中国語で即時に通訳し合いながら、話しているのを見て、まおさんや、ちんさんや、ちょうさんは決して特別じゃないのだなと思いました。

留学先に定着して、帰れなかったちょうさんは、その後望郷の念からこんな言葉を残しています。

「ああ、こうしてここでお月さまを眺めていると、僕のふるさとの山にもお月さまが出てるのを思い出すなあ。……ミカサの山に。」

日本の名前は「なかまるさん」。そしてこの歌は正しくは「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも」

です。気の合う友人に「リーバイさん」「ワンウェイさん」など詩の神様がいたので、本人も歌が得意だったのでしょう。・・・そう。奈良時代に遣唐使で中国に渡った阿倍仲麻呂です。中国名を朝衡（ちょうこう：晁衡とも）と言いました。「リーバイさん」は李白、「ワンウェイさん」は王維です。よほど信頼があつかったのか、阿倍仲麻呂を迎えにはるばる唐まで行った人までいます。

ここまで読んでくださって、ハッとなさった方もおいでですね？・・・ふふふ。・・・みんな留学生でしたよ。

ちょっと脱線ですが・・・

日本語学習者にわかるように「やさしい日本語」が勧められています。実は私もよくお茶を飲みながら、本当は表現の難しい話を、やさしい日本語にして、学生たちとおしゃべりしています。

「弟とケンカしたお姉ちゃんが「引きこもり」になってしまう話、知ってる？・・・

落ち込んで、引きこもりになっていたら、外が賑やかで楽しそうだった。変だなあと、扉を開けてちょっと外を覗いてみた。ダンスしてる人がいる！ダンサーの名前は「ウズメ」。そこで、自分の顔を鏡に写されて、びっくりした。自分で「まあきれい」とか言っちゃうっていう、面白い話だよ」

この話を知っている学生は笑って聞いています。知らない人は一生懸命聞いてくれます。

『「タチカラ」と言う名前の男の人が、このお姉ちゃんに鏡を見せた時、『前の子よりかわいい女の子が出てき

たから、踊ってんだよ』と言ったので、お姉ちゃんはムカついたんだって！お姉ちゃん思わず身を乗り出したら、引きずり出されて・・・。世界は明るくなりましたとさ。このお姉ちゃんは太陽の神様・・・名前は『あまてらす』。この時見せた鏡は今三重県にあるよ。」

どこかのお偉方に怒られそうですが、伝わることの方が意義があるので、お許しのほどを。

この話を聞いて、この夏「あまてらす」に会いに行った学生らがいます。

さて戻りましょう。

初めにお話したまおさんは、いわゆる言語的才能に優れた学生でしたから、書いたものは留学先でも高く評価されました。字も上手だったんだな、これが！

その後、2年間の留学を終えましたが、生涯の師と仰ぐ人と数ヶ月しか一緒にいなかったのに、その人自身に選ばれて、大切なものを教えてもらって故国に帰ったのです。真言密教です。帰国後はシンデレラボーイ、大出世しました。政府から預かった学校は今でも新幹線のお寺です。留学前から日本にないお経のリストを作ったりしていたそうです。メモ魔で収集癖のあったまおさんの残したものなどは「東寺文書(もんじょ)」の一部として国宝になりました。

そして、「今も」和歌山県に「お住まいです」。・・・弘法

大師さんとして。

俗名は佐伯眞魚（さえきのまお）。空海その人です。

一方、ちんさんはもともと中国の人でインドに留学した人でした。そしてたまにオペラに出ています。中国語だけど。猿と豚？？と河童？？を連れて。ストーリーは随分脚色されましたが、日本のアニメやドラマにもなりました。なぜか夏目雅子さんに似ていると思うのは私だけ？

本名は陳禕、帰国された後は国際化進む唐の王朝で重用され、亡くなってから玄奘三蔵となられました。私たちが漢文として接する經典の多くは、このちんさんたちによってサンスクリット語から中国語に改められたものです。

みんな若い頃があって、学生だった頃には周りの人に助けってもらって、そして自分の一生の目的を達成したのです。

ボランティアの皆さん。この若い、未来のある皆さんを助けてあげてくださいね。



■ ボランティア一人一人が主役

ちよだ日本語カフェ『Swan』(千代田区)

<http://swanchiyodahp.wixsite.com/swan>

『Swan』の開講は、2015年3月です。「文化庁委託事業／日本語ボランティア入門講座」に参加した14人のボランティアが会員として立上げました。活動は毎週金曜日6時半から8時半まで。名前の通り、2時間の活動時間の間にカフェの時間を設けています。

カフェの時間は、開始時間から1時間後に20分間。新メンバーの自己紹介や『Swan』から外国人学習者への連絡事項、その日のリーダーの裁量で日本文化の紹介等をします。この時間は学習者同士が顔見知りになるいい機会になっていると自負しています。

『Swan』は、会員相互の協調の基に、外国人との日本語会話を通じて国際交流に貢献する、を目的としています。そ

れは、外国人の居場所を作ることにも含めています。そんな考えの中、通常の活動以外に以下の様なことをしています。

【日本文化の紹介】

花見や歌舞伎鑑賞、人形浄瑠璃鑑賞、盆踊り等、日本文化を楽しむ場の提供

【防災難民にならない為に】

防災の日近くに通常の活動内で資料を配布し、ボランティアが防災について伝授。2月には秋葉原駅での外国人支援防災訓練に参加

【外国人が地域ボランティア】

千代田区の社会福祉施設で、外国人が地域交流をする機会を設ける。各施設のお祭り等で、参加

している外国人の国の言語でじゃんけんをする「世界のじゃんけん大会」のブースの設置

現在のボランティアは、18名です。目的の中にある通り、仲間を大事にすることにより、ボランティアたちが協調性を以て、外国人にとっても居心地の良い雰囲気の中で活動が続けていける環境作りを心掛けたいと思っています。

最後に、九段日本語学院の北川校長先生には日頃より多大なるご厚意を賜り感謝申し上げます。



会員団体紹介

Nice to Meet You

こんにちは。“日本語クラブ☆いずみ”と申します。2016年に練馬区の片隅にたった二人でたちあげた、若い小さなボランティア教室です。と言っ



nice to meet you

■ 解散の危機を乗り越えて

日本語クラブ☆いずみ (練馬区)

飯野やすこ

でも以前は“にほんご友好会”という名前で活動し、通算すれば今年で28年目になります。改名したのは講師がさまざまな理由でリタイアしたからです。のこったのはただ一人。困惑し、時には解散しようとさえ考えました。しかし現在のボランティア活動に熱心な新進気鋭の講師たちが参加して再び活気が戻りつつあります。全員、区の養成講座で日本語の教え方の手ほどきを受け、その後も各自熱心に教える技に磨きをかけ、日々創意工夫して学習者に一日も早く日本語に馴染んでもらおうと基本の教え方に加えて自分なりの方法

で鋭意努力しております。一方、学習者と言えば私どもは夜のクラスなので研修者、学生、勤め人が大半で、休むこともしばしばです。シラバスを組み覚えてもらうことを準備し、予定を組んでも未定に終わることもあります。しかし、いつも楽しそうに日本語や日本について学ぼうとしている学習者の事を思い浮かべるとフッと気持ちが和みます。

これからは外国人の就労者がどんどん日本に来ると、言われています。TNVNの会報にも記載されていましたが、日本語教室の中核はボランティア教室だと…。私どもの教室も誇りをもって協力していきたいと思っています。その為にも学習者が来て学びやすく、くつろげる空間にしたいと思っています。

羊羹と抹茶のお茶会

しば日本語クラブ（港区）

9月28日土曜日の午後、私たち「しば日本語クラブ」の教室は20名の外国人と8名の日本語ボランティアで熱気に満ち、前方にはあの有名な老舗和菓子店の「虎屋」の社会貢献チームのスタッフ4名がやさしい日本語での説明に奮闘していた。

このイベント開催の経緯は次のとおりである。今年3月にTNVWの本機関紙に同封されてきた株式会社虎屋社会貢献活動チーム「虎っ子隊」からのチラシを目にした。「しば日本語クラブ」は創立3年目に入り、学習者にもっと日本を知って楽しんでもらえる企画を模索している最中だった。この虎屋さんの案内は、在日外国人に対して日本文化を伝えることのできる素晴らしい機会だと思い、すぐさま記載の連絡先に実施希望の依頼メールを出した。すぐにご担当からお電話をいただき、詳細の要望書を出したものの、このような魅力的イベントには応募する団体も多いはずと不安と期待のまま時間が過ぎた。そしてついに5月の初めにうれしいメール「開催決定のお知らせ」が届き、9月に開催していただけるとのこととなった。

さて、このイベントの当日、最初の1時間は通常のレッスンをを行った。レッスンの終了後、約10分程度で机のレイアウトの変更を行い、虎っ子隊のメンバーが準備した抹茶茶碗や羊羹を運び入れた。最初は長い歴史を持つ「羊羹」のお話だ。「蒸羊羹」「煉羊羹」「水羊羹」の種類から、羊羹の原材料である「小豆」「寒天」「白(しろ)双糖(ざらとう)(砂糖の一種)」の説明へ。それらの現物が回覧され、参加全員が興味深く、触ったり、嗅いだり。その後は虎屋の羊羹は3日間掛けて作る話。そして羊羹の歴史。羊羹の起源は中国にあるという説明に日本人も驚いた。昔、お坊さんが中国から羊羹(=羊のスープ[羊の羹(あつもの)])を伝える際、肉の代わりに小豆を小麦粉で固めたのだそう。時代が流れ、今の羊羹になったとのこと。何故羊羹に「羊」という文字が使われているのかを日本人も改めて知る機会となった。この日のお出しいただいた羊羹はあの有名な『夜の梅』だった。名前の由来を写真と共に説明いただき、学習者も日本人の季節や情景に対する日本古来の伝統文化をほんの僅かかもしれないが感じることはできたのではないかと。古来の文化を理解するのは日本人ですら難しい。配られた『夜の梅』の切り口をみて、何人かその情景を思い浮かべられたであろう！？

*『夜の梅』の名前の由来：切り口の小豆を夜の闇の中、白い梅の花がほのかに浮かびあがる情景に見立てた。

いよいよこの後は、試食とお抹茶を点てる体験だ。虎っ子隊の抹茶点てのデモンストレーションを全員食い入るように観察した後、学習者数人ずつに、抹茶を入れた茶碗と茶筌が配られた。皆、初めての体験のようだ。恐る恐る茶筌(せん)を回す学習者、泡立てようと茶道の所作を知らずにかき回す学習者の間を、虎っ子隊の皆さんや知識のあるボランティアが、茶筌の持ち方から扱い方まで丁寧に教えて回った。お抹茶と羊羹のお味の評価は？丁寧な説明を聞いた後だからか、皆、口を揃えて「美味しいっ！」と絶賛！更に虎っ子隊から、あんペーストのクラッカーが供され、各テーブルでの盛り上がりは予想を上回った。

質問や感想を述べる多くの学習者に接し、またわいわいと終了時間が近づいても終わらない会に虎っ子隊の皆さんだけでなく「しば日本語クラブ」運営側もたいへん満足した。

虎っ子隊の方々には、この誌面にて改めて感謝の気持ちを申し上げると共に、今後、更に活動を拡げてくださるようお願いしたい。



●2019年度第2回運営委員会開催(11月1日)出席者12名

本号第1ページ掲載の諸問題を中心に活発な話し合いが持たれました。

●スタッフの高齢化

東京オリンピックで活動したボランティアの方々に、日本語ボランティア活動への参加を東京都を通じて働きかける等の、具体的対策を検討。

●活動経費

現在、学習希望者の利便性を優先して、冊子ガイドやHPの日本語教室案内には、非会員も掲載している。『TNVNは、①会報を出している。②HPの教室案内は学習希望者には大変役立っており、問い合わせが増えている。③TNVNの活動は、文化庁をはじめ東京都生活文化局、東京都国際交流委員会、その他自治体、市民団体、NPOからと、広く評価されるようになり、その活動は会費と寄付のみで運営されている』等をアピールするなどして、非会員団体に正会員になって頂くよう努める。

●ホームページ

HPの重要性は増している。現在、在宅スタッフ一人の尽力で維持されている。危機管理の観点からも担当スタッフと一層の意思疎通を図り、今後の見通しや後継者の育成を考える。

●都立高校入試

2020年春の入試において、①外国人特別枠を持つ高校に「杉並総合高校」が加わる。②外国で中学を卒業してから来日した受験生の資格審査が改善される。

●新会員紹介

正会員：ちよだ日本語カフェ『swan』(千代田区)

Column 永井陽右氏講演会で感じたこと

私は春原憲一郎先生が主宰する勉強会「水曜会」に参加しています。

6月の例会でAERAの「ソマリア問題を解決に導く27歳」の記事を皆で読み、紹介された永井陽右氏に対する興味が深まり、7月、水曜会主催の講演会を開催して聞きました。

永井氏は2011年早稲田大学入学。留学中のソマリア人二人と日本人スタッフで日本ソマリア青年機構」を設立。13年ケニアのナイロビ郊外イスリー地区のギャングの脱過激化、社会復帰支援活動開始。直ぐにギャング団解散という成果を出したというのが素晴らしいと思います。投降者と親しくなり、彼を通じてギャングのボスと親しくなるというルートが彼の進め方で、従来の国際機関の進め方と違います。ギャングの解団式の映像など面白い。また自分が日本人と伝えるとイスラム過激派からは「遠い所から良く来てくれた」という言葉があったり、反

米の気持ちが強いためか「『日本はアメリカにやられた国だ』と親しみを持たれ、入りやすかった」などの説明もありました。

「15年早大卒業。19年 アル・シャバール投降兵へのソマリア政府との協働事業開始。」という、素晴らしい活動には敬服します。

中国についても何かできないかとウイグルに行ったが、ウイグル族と話すとき添いの中国人が長くは話せなくする。あまり長く話していると逮捕されそうで、中国については断念したそうです。アフリカで見た中国人の感想として「大変エネルギーギッシュと感じた。日本については金を出してはいるが、中国のような勢いを感じなかった」とのことです。

終了後の食事会でも笑いを誘う発言が多く、そういう人柄がギャングなどにも受け入れられるのではないのでしょうか。

(床呂英一)



東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)出口B2b 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数(2019年11月15日現在)

正会員：90団体

個人協力会員：16名

賛助会員：3団体

◆編集／大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、佐久間 雅子、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 真理

◆レイアウト／美巧社